

# 地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 令和7年11月5日（水）

2 視察地 大阪府豊中市

## 【市の概要】

(1) 面積 36.39km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(令和7年12月1日現在)

○人口 398,183人

○世帯数 182,839世帯



(3) 豊中市は、大阪北摂地域に位置する人口約40万を擁する中核市である。明治以降、箕面有馬電軌道（現在の阪急電鉄）の開通に伴い、日本初の住宅地分譲が行われた「住宅都市」の先駆けとして知られている。

市の南部には「空の玄関口」である大阪国際空港（伊丹空港）があり、阪急電鉄、北大阪急行、大阪モノレールが通るなど、交通の利便性が極めて高いのが特徴である。また、千里ニュータウンを擁する北部は、緑豊かな公園や教育機関が集まる閑静な住宅が広がっている。市の中心にある服部緑地は、甲子園球場の約3.3倍という広さを誇り、市民の憩いの場となっている。

教育・文化面では、大阪大学豊中キャンパスが位置する「学術都市」の一面を持ち、市内には高校野球発祥の地（豊中グランド）があるなど、スポーツ文化も根付いている。

利便性と豊かな自然、そして高い教育水準が調和しており、幅広い世代に支持される「住みたいまち」として発展を続けている。

3 視察項目・内容

小1の壁の取り組みについて

4 視察参加者

## 【委員】

木もとひろゆき委員長

近藤なつ子副委員長

井下田栄一委員

青木仁美委員

山口かおる委員

伊藤陽平委員

渡辺やすし委員

おやまだ静香委員

## 【随行】

議会事務局議事係 2名

## 5 視察結果・所感

小一の壁とは、保育園から小学校へ進学する際に、登校時間や下校時間、長期休暇中の預かり体制などの変化により、共働き家庭を中心に仕事と子育ての両立が困難になる課題である。少子化が進む一方で共働き世帯が増加する中、全国の自治体共通の重要なテーマであり、新宿区にとっても避けて通れない課題である。

豊中市では、放課後こどもクラブの充実をはじめ、学校と放課後施策の連携を重視した取組が進められていた。また、学童保育の受け入れ体制の拡充だけでなく、学校施設を活用した居場所づくりを民間事業者（警備会社）との連携により実施している。「一人でも朝の居場所について必要とする家庭があるならば、居場所を提供する。」との多様な家庭状況に対応しようとする姿勢が特に印象的だった。

今回の視察を通じて、「小一の壁」は単なる放課後対策にとどまらず、子育て支援、教育政策、働き方改革とも深く関わる複合的な課題であることを再認識した。新宿区においても、地域性や人口規模を踏まえつつ、豊中市の先進事例を参考にしながら、子どもと保護者が安心して小学校生活をスタートできる環境整備に取り組んでいく必要があると強く感じた。

## 6 主な質疑項目

- (1) 小学校見守り事業の保護者付き添いについて
- (2) 民間見守り員の募集について
- (3) 見守り事業の利用率について
- (4) 民間との連携について
- (5) 学童クラブの利用児童が少数の場合でも継続して運営する方針の背景とそのための財政的・人的な工夫について
- (6) 障害のある児童でも安心して利用できる支援体制について
- (7) 警備会社と連携した見守り体制の人員確保等整備状況と、安全確保の取組について
- (8) 1日の利用数が多い小学校と少ない小学校など地域の特性について
- (9) 教員の働き方改革の面から、教員の負担を増やさない取り組みについて

## 7 その他

### 【共同視察者】

子ども家庭部子ども家庭課長  
教育委員会事務局教育調整課長

